

---

# 日漢雙解慣用句詞典

---



华夏出版社

日汉双解惯用句词典

袁伟 刘力 编

•

华夏出版社出版发行

(北京东直门外香河园柳芳富里)

新华书店经销

北京印刷一厂印刷

\*

787×1092毫米 32开本 23.5印张 808千字 插页2  
1989年6月北京第1版 1989年5月北京第1次印刷  
印数 1—15900册

ISBN 7-80053-248-8/H·001

定价：8.45元

## 前 言

惯用句是日语里使用范围较广、运用灵活、富有表现力的一种语言形式。它在日语中占有重要地位，也是日语研究中的一个重要课题。较之一般的词组，它有着自身不同的特点。其中最明显的特点之一，就是它的引申意义，例如：

- 下駄を預ける —— 委托处理问题；  
竹を割ったよう —— 爽快的（性格）；  
肩を持つ —— 袒护。

惯用句的这个特点，使它在理解和活用方面，给人们带来了很大的困难，尤其是对于以日语为第二语言的人，要正确地掌握它无疑会更为困难。鉴于目前国内尚无一部适合广大日语学习者和爱好者使用的日中惯用句词典，因此，编纂一部这样的词典就成为一项十分迫切、十分必要的工作了。

当我们于1979年着手编纂时，首先碰到了一个难题：什么是惯用句？它和一般词组、成语以及口语俗谚之间能否划出一条泾渭分明的界线？长期以来，日本语言学界对这一问题也没有取得一致意见，对惯用句至今尚无一个明确的、公认的定义，日本已出版的几部惯用句词典，收词标准也极不统一。在这种情况下，我们觉得拘泥于一语一词是否是惯用句，也许是毫无意义的。但为求本书所收词条规范，我们注意了以下几点：

1. 尽量不收“故事成語”（成语）、“諺”（谚语）、“格言”等。对有些一时难于分清的话语，暂且收录。
2. 尽量不收带有提示助词“は”的句子。因此类句子，多系谚语或俗语，且多系句子，不是词组。例如：血は水よりも濃し、湯の辞餓は水になる、蛇の道は蛇等等。
3. 凡来源于中文词组的惯用句，只要它的意义没有发生变化或派生新的含义，一般不收录。例如：雌雄を決する（决一雌雄）、秋波を送る（送秋波）、同じ穴の貉（一丘之貉）等等。
4. 有些词组的引申意义不显明，但其固定结合程度较高，本书暂且收

录。

双语词典编纂的一个主要困难，在于它不仅处理两种不同的文化和语言行为，而且还要处理两种不同的概念形成方式。因此，在编纂过程中，我们自始至终把注意力放在两种不同语言的互译上面，不仅在语体上，而且在语义和句法方面，尽可能忠诚地保持原语的语言模式。同时，考虑到我国读者的需要，我们还给词条增加了原文的解释，某些词条还注出它的近义词或反义词。

日本已出版的几部惯用句词典，因其服务对象是日本读者，例句很少，不适于我国读者使用。我国出版的几种日汉词典，虽收有少量惯用句，但也没有或极少例句。为了帮助读者更好地理解词义及其用法，我们给大部分词条都附了例句。原则上是一义一例，有的多至四、五例，这是由于词条使用频率的高低、对例句内容的取舍、惯用句出现的形式不同（如否定式、过去式、中顿式、被动式、主动式等）等原因而形成的。例句大多采自日本明治、大正、昭和时期的文学作品，一部分引自正式出版的书籍和报刊。引用时，我们对某些例句略有剪裁，尽可能做到句子既简短又能清楚地表明该惯用句的使用语境及条件。例句的译文，有的摘自原作的中译本，有的是我们自译，为求简便，没有一一注明。有个别例句，反映的是日本社会情况，由于国情不同，希望读者以批判的眼光去看待。

开始着眼于惯用句这种语言现象时，得到了日本筑波大学副教授上野惠司先生的指教。在编纂过程中，又得到了日本语言学家宫岛达夫先生以及曾在北京外国语学院任教的专家新川忠先生的指导和帮助，两位先生还审阅了书稿的日文部分。日本大阪大学教授宫地裕先生为我们提供了大量的文学作品中的例句。日本大东文化大学的金田日出男、伊藤兼博、长岩昭道等同学也为我们提供了一些例句。我国日本文学研究所主任李芒先生为我们提供了日本文学作品中中文译本的目录。还有我系领导李书成同志以及周毅、严安生等老师，如果没有他们的积极支持和热情鼓励，我们要编成这部小书恐怕是很困难的。在此，我们一并向他们表示诚挚的谢意。

本书完稿以后，承蒙日语界老前辈姜晚成先生审阅一过，朱春跃同志在百忙中特为本书词条标注声调，我们深致谢忱！

编纂日中惯用句词典是我们的一个尝试，错误和缺点在所难免。我们只

---

是希望这本小书能对我国广大的日语学习者有所帮助，并希望能对日语的研究作出一点微薄的贡献。

编 者

1986年8月于北京外国语学院

## 凡 例

1. 本辞典所收惯用句约四千条，按日文“五十音图”次序排列。书后附有惯用句的索引。索引中每一词条后面，均用数码注明声调，详情可参阅书末所附《惯用句声调标注原则》一文。
2. 凡词条使用的汉字，一律采用日本常用汉字，并注明日语读音。
3. 有词尾变化的词条一律列出基本形。
4. 有自他动词的词组分别单列词条。例如：手が掛かる 手を掛ける
5. 日文释义中的“〔 〕”表示说明部分。
6. 日文释义及例句结束时标以符号“/”，下接中文译文。
7. 词条的中文译词，在每个意思完整的译词后标“。”，表示中顿的标“，”。
8. 日文例句前用“||”表示，两个例句之间亦用“||”隔开。
9. 例句中的惯用句部分用黑体字表示(不包括变化部分或补助动词等)。例如：**我にかえ**つて。
10. 日文例句及中文译文中需作补充的，用“( )”表示；需要省略的，用“…”表示。
11. 根据情况，对有些惯用句的来源及出处的说明部分，只附日文解释，不加中文译文。
12. 反义词组，日文用“対”表示，中文注“反义词组”。近义词组，日文用“類”表示，中文注“近义词组”。词组分别加“ ”表示。
13. 文学作品中的例句，词条部分的汉字，如有与词条不符时，作了改动。
14. 例句有出处的表示如下：〈森村・人間の証明〉。作家只取姓，作品取全名；作家及作品名不译，可参看附录《作家作品一览表》。

## 目 录

前言	1
凡例	4
词典正文	1
本书主要参考书目	636
附录	
本书用例所引作家作品一览表	637
简明世界名曲日中对照表	643
日本都、道、府、县、厅所在地一览表	656
日本主要河流、山脉一览表	657
汉字偏旁部首日译一览表	661
索引	668
惯用句声调标注原则	740

## あ

## ああ言えばこう言う

いろいろと理屈を並べて、人の意見になかなか従わないさまをいう／強詞奪理。狡辯。和人家顶牛儿。|| 彼はああいえばこういうで、なかなか人の言うことを聞かない／他总是強詞奪理，不听别人的话。|| 彼はああ言えばこう言うし、こう言えばああ言うし、どこまでも人に逆いたい性分なんだなあ〈里見・焼土〉／他天生就总是強詞奪理的哪，人家说东，他偏说西，人家说西，他偏说东。

## 愛敬を振りまく

だれに対しても愛想よくする。まわりのすべての人に明るくにこやかな態度を示す／对谁都和顔悦色。和蔼可亲。|| 彼女は客に愛敬を振りまくのが嫌いだ／她不愿意对客人和顔悦色。|| 彼は周囲のだれにでも愛想を振りまく／他对周围的任何人都和顔悦色。

## 愛想が尽きる

あぎれて、好意や親しみが持てなくなる。すっかりきらいになる。「あいそが尽きる」とも／讨厌。嫌悪。不喜欢。不搭理。也说“あいそが尽きる”。|| 庶民を忘れた政治屋にはっかり愛想が尽きてしまった〈朝日・昭和43・6・14〉／头脑

里没有老百姓的政客招人讨厌透了。|| この子はちっとも親の言うことを聞かない。自分の子ながら、愛想が尽きた／这个孩子一点儿也不听父母的话，尽管是亲生的，也不喜欢。

## 愛想を尽かす

相手にいや気がさしてとりあわないようになる。みかぎる。「あいそを尽かす」とも／厌弃，讨厌。不搭理。也说“あいそを尽かす”。|| 彼は女房にまで愛想を尽かされた／连老婆都讨厌他了。|| 私はあなたに軽蔑され、愛想をつかされることも恐れておりました〈武者小路・友情〉／我还怕你轻视我，讨厌我。|| 他人に愛想を尽かした私は、自分にも愛想を尽かして動けなくなったのです〈夏目・心〉一向厌恶别人的我，也终于厌恶自己，只好无所作为了。

## 開いた口が塞がらない

あぎれかえっているようす。あぎれて物も言えないようす／(吓得)目瞪口呆。张口结舌。|| 私は、彼の自慢話を聞いて、あいた口がふさがらなかった／我听了他那番自吹自擂之后，简直吓呆了。|| 彼女は、私が言った事を聞いて、あいた口がふさがらないようだった／她听了我说的话，吓得目瞪口呆。|| 噂をすれば影とやらで、ひょっくり自分が現われたなら、升屋の老人びっくりして開



いた口がふさがらないかもしれない  
〈国木田・酒中日記〉／俗话说：说曹操，曹操就到，我若突然一出现，升屋老人或许会吓愣住。

### 開いた口へ牡丹餅

おもいがけない幸運にあうこと。  
たなぼた／福自天降。

### 間に立つ

両者の間にはいって取り持ちをする。仲介をする／从中斡旋。|| この紛争を解決するために、ぜひあいだに立っていただき／为了解决这场纠纷，请您务必从中调解一下。|| 出資者たちからは、まだかまだかと催促され、きみをみこんで研究をまかせたわしとしては、あいだに立って、困っていたところだった〈星・宇宙のあいさつ〉／几位出资人在催逼。因为当初是我看中了你，才委托你搞这项研究的，所以我处在中间颇感为难。

### 間へ入る

両者の中間に立つ。特に、対立する両者の中にはいってとりなす。「あいだに入る」とも／居间说和。也说“あいだに入る”。|| 二人の争いは私が間に入って丸くおさめた／两人的争执由我从中说合后，圆满解决了。

### 相槌を打つ

相手の話に調子を合わせて受け答えをしたり、うなずいたりする／随声附和。搭腔。|| 彼はいちいち相槌をうちながら私の話を聞いた／他一边点头一一称是，一边听了我讲的话。|| 角田支店長と岡村は、相槌を打ちながら、内心、時間を気にしていた〈山崎・華麗なる一族〉角田分行長和岡村一面随声附和，一面心里惦记着时间。|| 彼は、なじみの給仕女がべちゃくちゃ何か話しかけるのに、相槌を打つのが辛かった〈長谷川・二人の軽業師〉／一个面熟的女招待喋喋不休地说个不停，可他懒得搭讪她。|| その二人は多少この男の身の上を知っているらしくいつも彼の言うことにさからわず合槌を打つを見て…〈国木田・帽子〉／那二位对那个汉子的身世好象多少知道些，看到他们对他随声附和，连连称是，…

### 合間を縫う

仕事の合間のわずかな時間を利用して何かをする／抽空。偷空。|| 仕事の合間を縫って、床屋に行つて髪をセットしてきた／在工作中间抽空到理发店，整了整头发。

### 青筋を立てる

〔こめかみに青筋が浮きでるほど〕興奮しておこるようす／(气得)青筋暴露。|| 父は口答えした私に青筋を立てて怒った／父亲见我顶嘴气

得青筋暴露。

**青田を売る**

〔稲が実らないうちに、田一枚いくらで金に代えることから〕製品ができあがらない前に売ることのたとえ／**売青苗**。(东西未制成之前) 提前卖出。|| 宅地と建物を着工前に売り出すのは、**青田を売る**ようなもので、制限すべきだ／**还没施工就先卖地皮和房屋**，这和**卖青苗**一样，应该加以限制。

**青田を買う**

〔まだ稲が実らないうちに、その田の収穫量を見越して先に買いあげることから〕企業が人材確保のために、卒業年次になったばかりの学生の採用を早ばやと決めてしまうことのとえ／**企业早早决定录用将毕业的学学生**。|| **あまり早く手を回して青田を買うと**，卒業前の学生が落ちつかなくなって困る／**过早下手**，提前决定录用，弄得**应届毕业生安不下心**，不好办。

**青菜に塩**

元気がなくしずんでしまうようす／**沮丧**。垂头丧气。无精打采。|| **あいつは事業に失敗して**，**青菜に塩**のようさ／**那个家伙事业上搞失败了**，垂头丧气啦。|| **少年は青菜に塩**のように力なくなだれて**闇市の脇の松の根方**にうづくまる〈中上・鳳仙花〉

／**少年无精打采**，垂头丧气地蹲在**黑市旁边的松树下边**。

**煽りを買う**

〔強い風の衝撃を受けることから〕そばにいたため、また近い関係にあったため、思わぬ**災難**や**影きょう**をうけること／**受冲击**。受影响。|| **ドル安円高の煽り**を食って、**対米輸出が不振**になってきた／**受美元贬值日元升值的影响**，**对美出口减退**了。|| **大会社の倒産の煽り**を食って、**中小企業の経営も困難**になった／**受大公司倒闭的影响**，**中小企业也不好经营**了。

**赤い着物を着る**

**入獄**する。刑務所にはいる／**坐牢**。进监狱。|| **自分のしたことは自分で責任を負います…赤い着物**でも何でも着ます〈**島崎・家**〉／**一人做事一人当**。…哪怕是**坐牢**、**穿囚服**，**怎么都行**。

**垢が抜ける**

**容姿や服装**などが**都会風**に洗練されて、**やぼったいところ**がなくなる／**变俏皮**。变漂亮。不土气。|| **都会生活**をしてすっかり**垢が抜けてきた**／**过城市生活**，**一点儿土气也没有了**。|| **あの娘さんは田舎から出て来て**，もう半年，**近ごろだんだん垢が抜けてきた**／**那个姑娘从农村出来已半年了**，近来渐渐**俏皮**起来了。

### あが 足掻きが取れない

対処の方法、手段がなくて、どうしようもない／一筹莫展。进退维谷。|| 借金がたまって、足掻きが取れない／債台高筑、弄得一筹莫展。|| 泥沼にはまりこんだように足掻きが取れず、とうとう手をあげた／象陷在泥潭里似地一筹莫展、终于服输了。

### あかこ 赤子の手を握るよう

力のない相手をたやすく負かすことのとたとえ。また、たやすくできることのとたとえ／不费吹灰之力。|| 政治権力を盾に庶民に重税を課すのは赤子の手を握るようなものだ／凭政治权力课老百姓以重税是轻而易举的事。|| 商売にうとい人をだまして資金を出させるのは赤子の手を握るようなものだ／糊弄不懂做买卖的人出资金很容易。|| 彼がいくら将棋が強いといってもぼくの手にかかれば、赤子の手を握るようなものだ／无论他说棋艺怎么高超，若和我下，赢他不费吹灰之力。

### あかし た 証を立てる

証拠をはっきり示す。身の潔白なことを証明する／证明。证明自己清白。|| 真犯人をつきとめて身の証を立てる／查明真正犯人，证明自己无辜。|| 君は否定するが、君がやったのではないという証を立てることが

できるのかね／你否认，但是你能证明不是你干的吗？

### あか たん 赤の他人

〔「赤」は、まったくの意〕姻戚関係などの全くない他人。何のかかわりもない他人／外人。毫不相干の人。|| (彼は)二人はやはり自分にとって赤の他人だという気がした〈武者小路・友情〉／(他)觉得他们两个人对自己来说毕竟是陌生人。|| 師とも頼み恩人とも思ふあの蓮太郎と自分とは、全く、赤の他人のように言消してしまったことを思い出した〈島崎・破戒〉／想起了曾经象不相干的人似地否认过尊为师长、视同恩人的莲太郎与自己的关系。|| 私は父が私のほんとうの父であり、先生はまたいうまでもなく、あかの他人であるという明白な事実を、ことさらに目の前に並べてみて、始めて大きな真理でも発見したかのごとくにおどろいた〈夏目・心〉／父亲是我的生身之父，先生当然是个外人。当把这个明显的事实特意摆到眼前时，我仿佛刚刚发现了一个很大的真理似的，不由地惊愕了。

### あかほじ 赤耻をかく

他人の面前で、ひどく耻かしい思いをする。「赤恥」は、耻を強めた言い方。「赤っ耻をかく」とも／当众出丑。丢大丑。也说“赤っ耻をかく”。|| 歌えないといったのに、無

理に歌わされ、赤恥をかいてしまった／（我）说不会唱，还硬让我唱，结果丢了大丑。∥私は、何も活字にまでして、お前に赤恥を搔かされなければならないようなことをした覚えはないよ〈宮本・伸子〉／我不记得干过见诸文字的、让你丢人现眼的事情。

### あきかぜ た 秋風が立つ

→「秋風が吹く」。∥熱烈な恋愛をした二人だったが、今では秋風が立ちはじめている／曾经热恋过的两个人现在冷淡起来了。

### あきかぜ く 秋風が吹く

男女間の愛情がさめる。「秋風が立つ」とも。〔「秋」を「飽き」にかけていう〕／愛情冷淡下去。也说“秋風が立つ”。∥季節はもう春だというのに、二人の間には秋風が吹いている／虽然时值春日，但是他俩之间却冷若冰霜。

### あきも あかかれもせず

相手をいやがることもなく、相手にいやがられもせず、相変わらず愛し合っている／仍然相互爱慕。∥二人は飽きも飽かれもせぬ仲だ／他俩还是相爱如初。

### あき つよ 灰汁が強い

．〔波みが強いことから〕転じて、人の性格や物の考え方などに、一種

のしつこさやあくどさがあること／个性強。倔强。∥官僚である美馬は、党人派で特に灰汁が強く、政敵の多い大川一郎と親戚であることは迷惑で、できるだけ大川一郎と顔を合わせぬようにたち廻っていたが、…〈山崎・華麗なる一族〉／身居官职的美马觉得有大川一郎这样一个既是党派人士、个性又特别强、政敌很多的亲戚，很为难，所以尽量设法不同大川一郎照面，…

### あき が 抜ける

人の趣味、性格、容姿などが洗練されて、いやみやあくどさがなくなる。さっぱりとしている／（兴趣、性格、容貌等）不俗气。变文雅。∥彼女は灰汁が抜ければ、いい女になるのだが…／如果去掉俗气，她就会变成一个不错的女性，…∥彼は近ごろ何か悟ったらしく、すっかり灰汁が抜けた／他近来好象悟出了什么，变得非常文雅了。

### あきせんみ 悪銭身につかず

不正な方法で得た金銭は浪費しがちで残らないものだ／悖人悖出。

### あきない 悪態をつく

人をいやしめて、はげしく悪口をいう。けなす。ののしる／破口大骂。撒泼。∥だが、酔った男はこのままで引っこんでは恰好がつかぬと思ったのか、さらに悪態をついた

〈渡辺・光と影〉／但那个醉汉也许觉得就此罢休不好看，又火骂起来。

∥（お勢は）「ばか」顔に似合わぬ悪態をつきながら、起ち上がって邪慳に障子をしめ切り、…〈二葉亭・浮雲〉／“混蛋！”（阿勢）用和她那容貌极不相称的脏话骂着，站起身来恶狠狠地拉上木格纸门，…

### あくびを噛み殺す

あくびが出そうになるのを我慢して口の中のみこむ。〔飽き飽きして、いやいやながら何かをする場合に用いる〕／忍住哈欠。（用于感到腻味时）∥先生の長話しに生徒たちはさかんにあくびをかみ殺している／对老师的长篇大论，学生们在一个劲地忍住哈欠听。

### あくらをかか

①あくらの姿勢ですわる／盘腿坐。②〔「…にあぐらをかか」の形で〕あるものによつてのんきに、ずうずうしくかまえて努力しないこと／大模大样坐在…上。依仗靠山。∥人民の頭上にあぐらをかか政治屋／大模大样骑在人民头上的政客。∥親の遺産にあぐらをかいて、豪奢に暮らしている／坐享老子的遗产，过着豪华的生活。∥与党の安定多数にあぐらをかいて、予算案もらくらく通った／依靠执政党的稳定多数，预算草案也轻而易举地通过了。∥市民からまかされた特権にあぐらをかいて

責任感が全くなるなる／坐享市民委托的特权，一点儿责任心也没有了。

∥つまり、学歴と年功序列の上にあぐらをかいていた官庁人事をまず通産省において、根底からつくり変えようという改革案であった〈城山・官僚たちの夏〉／总之这个改革方案就是首先在通产省内，把躺在学历和资历上睡大觉的官场人事，来一番彻底的变革。∥（彼が）こんな生活しながら、冷厳公正なる頭取として世間を通していらっしやる、そして万俵家の人々も口を拭って、ぬくぬくとその偽善の上に胡坐をかき、世間を欺いている偽善者たちばかり、私はそれに騙された犠牲者だわ〈山崎・華麗なる一族〉／（他）一面过着这种生活，一面在社会上装出一副吃得开的正人君子的总经理模样。而万俵家的人竟也装作若无其事的样子，厚颜无耻地安于这种伪善生活，都是些欺世盗名的伪君子！我是受骗的牺牲者呀！

### あしをとる

人のことばじりや言いまちがえをとらえて、皮肉を言ったりやりこめたりする／抓小辫子。抓话把。∥彼はいつも人のあしをとるを取ってばかりいる。嫌われるのも無理ないよ／他总是抓人话把，难怪讨人嫌。∥まずいことをしゃべってあしを取られちゃおもしろくない〈夏目・坊っちゃん〉／假如讲得不好，被人抓了小辫

子就没趣了。||「タンコさんソソキさん、キッチンくらに、よろしくね。気がむいたら、遊びにきなさいってってね。」「先生、わたしらは？」小ツルはすぐあげ足をとる〈壺井・二十四の瞳〉/「見着团子、松鸡和鸡筋他们，都给我问好，高兴的话，让他们到我家去玩吧！」“老师，那我们呢？”小鹤立刻挑起眼来。

### 拳げ句の果て

最後の結果。種種の経過をへたのちのゆきつくところ。とどのつまり／結果。結局。最后。||つまらぬことから言い争い、拳げ句の果ては殴り合いになった／由于无聊的事争吵起来，最后竟扭打起来了。||聴衆は全員、水を打ったように静まり返って聞き惚れ、あげくの果て、半分ぐらいの人数はすすり泣きすることになるという〈丸谷・男のポケット〉／据说所有听众都静静地听得出神，结果，有一半人啜泣起来。||歯医者だけでも何軒変えたか分らない。そのたびに喧嘩をし、総入歯を何度となく作り直し、それが具合が悪いとすぐまた医者を変え、揚句の果ては遂い材料と道具類を買いこんで自分で入歯を作り出した〈有吉・恍惚の人〉／光牙科医生就不知换了多少个。每换一次就吵一次，满口假牙不知重做了多少遍，不合适了，马上再换个医生，最后终于买来材料和工具，自己动手做起假牙来了。

### 上げ潮に乗る

舟が、満ちてくる潮に乗って進むように、物事がさかんになり、勢いに満ちている。物事が調子よくいく状態にある／乗勢頭。順利进展。||事業は上げ潮に乗って急速に発展した／企业形势大好，迅速发展起来了。

### 明けても暮れても

毎日毎日変りなく、同じような状態が続いたり同じことを続けたりするようす／終日总是…。整天反复。地…。||明けても暮れても信一や光子の顔は頭の中を去らなかつた〈谷崎・少年〉／整天整日脑子里都离不开信一和光子等人的影子。

### 朱に染まる

血だらけになる。血まみれになる／满身是血。||刃物でさされた人が朱に染まって倒れていた／被刀刺伤的人满身是血地倒下了。||上り列車の洗面所で、朱に染って若い男女が死んでいた〈滝井・無限抱擁〉／在开往东京的列车上的洗脸间里，有一对浑身是血的青年男女死去了。

### 額が上がる

金銭がなくなって生活ができなくなる／没钱度日。

### 額が落ちる

食物が非常においしいことの形容。ほっぺたが落ちる／非常好吃。

||あの洋食屋のステーキは、顎が落ちる程うまかった／那家西餐館的牛肉扒好吃极了。||私はたいへん空腹だったので、何を食べても顎が落ちそうにおいしかった／因为我饿极了，所以吃什么都非常香。

顎が干上がる

「あごが上がる」を強めた言い方／无法糊口。强调“あごが上がる”的說法。||稼がなくては顎が干上がるという／说是不挣钱就无法糊口。

顎で使う

あごを動かして人に命令する意でいばった態度で人を使う／以倨傲的神经支配人。颐指气使。||あの店の主人は店員をあごで使うからきらわれている／因为那商店的老板总以倨傲的神经支配人，所以都讨厌他。||ここの先祖は、酋長たちを顎で使った親方さまだよ〈武田・森と湖のまつり〉／这里的祖先曾是对酋长们颐指气使的头领呀!

顎で鰻を追う

病氣などをして、顔にとまったはえを手で追い払う気もないほど体力が衰えていることのとえ／衰弱得瘫软无力。||太った顔がほっそりやせて顎で鰻を追うようになった／胖胖的脸枯瘦下去，衰弱不堪了。

顎をしゃくる

目下の者や親しい者に顎を使って指し示す。「顎でしゃくる」とも／用下巴示意。颐指。也说“顎でしゃくる”。||いくら大臣でも顎をしゃくって部下に用をいいつけるのはひどいよ／即使是个大臣，用下巴支使部下，也太不象话啦。

顎を出す

ひどく疲れる。へこたれる。あごをつきだす。また、自分の手に負えないでこまりはてる／精疲力尽。疲惫不堪。束手无策。||このぐらい歩いて顎を出すとはなさけないやつだ／走这么点儿路就累得精疲力竭，真是窝囊废。||彼女に置いて行かれるか、無理をしてあごを出すかどうかである〈新田・縦走路〉／是被她甩下，还是勉强跟她走累个半死，二者只能取其一。

顎を撫でる

物事が思い通りになって得意になっているようす／得意洋洋。||昇はあごをなでてそれをきいていたが…〈二葉亭・浮雲〉／阿升得意洋洋地听着…||浩太郎は、わざと顎を撫でるようないい方をしておいて…〈源氏・男と女世の中〉／浩太郎有意用了一种得意洋洋的口气…

顎を外す

大いに笑うことのたとえ／大笑。  
简直笑掉下巴。|| 彼女の話を聞いて  
いて、顎を外すほど笑った／听着她  
的话，简直笑掉了下巴。

あさあさ あだなき  
浅瀬に徒波

思慮の浅い者ほど落ち着きがな  
く、些細なことにもいたずらに大騒  
ぎするものだ／越是浅薄的人越大惊  
小怪。

あしおと ころ  
足音を殺す

歩くとき、足音をたてないように  
する。そっと歩く／蹑手蹑脚。|| シ  
ゲ子は踏石に降りてサンダルをはく  
と、足音を殺しながら、重松をケン  
ポ・ナシの木の下に連れていった  
〈井伏・黒い雨〉／繁子下去，踩在  
踏脚石上，穿上凉鞋，蹑着脚把重松  
拉到玄圃梨树底下。

あし ちっ  
足が地に着かない

①興奮や感動で気持ちが悪く落ち着か  
ずそわそわする／沉不住气。心神不  
定。稳不住神儿。|| 出発を明白に控  
えて足が地につかない／明天就要出  
发了，有些心神不定。|| 兄はデート  
だと言って、朝から足が地に付か  
ないでいる／哥哥说要去幽会，从早晨  
开始就沉不住气了。②理論だけが先  
に立って実地に合わない。また、基  
礎が確立していない／不切合实际。  
基础不牢。|| あの人たちのすることは  
何でも足が地についでいない／那

些人干的事什么都不牢靠。

あし っ  
足が付く

逃げた者や隠れた者の行方，足ど  
りがわかる。また，犯罪事実が現れ  
出る／有线索。露马脚。|| ドアに残  
した指紋から足がついた／从门上留  
下の指紋中找到了线索。|| 馬鹿め，  
足はついてるんだく徳永・太陽のな  
い街〉／蠢货，你败露了！|| 解体  
後，エンジンその他の使える部分を  
合成して，“合成車”をつくるつもり  
だ。これならどこからも足はつかな  
い森村・人間の証明〉／打算拆卸  
后，将还可以使用的引擎等部分拼起  
来，凑成一部“合成车”。这样，就不  
会有什么蛛丝马迹了。

あし っ  
足が出る

①隠し事が現れる。ぼろがでる／  
败露。露马脚。|| どんなに隠しても  
いつかは足が出るものだ／纸里包不  
住火。②支出額が予算額をこえる／  
超支。出现赤字。|| 今月も足が出て  
しまった／这个月又亏空了。|| 次か  
ら次へと買い物をしていたら，どう  
とう足が出てしまった／买了这个又  
买那个，终于超支了。|| 彼女は足が  
出ないように，バーゲンではよく注  
意して買いものをする／她为了不出  
亏空，在大拍卖时买东西很仔细。

あし とお  
足が遠のく

訪れることが少なくなる／很少登



門。|| 近頃では先生の家にも足が遠のいてしまった/近来也很少去老师家了。

### あしは早い 足が早い

①歩くこと、また走ることが早い/腿脚快。||それがまた生徒の心へひびかぬはずがなく、負けずに足が早くなつた<壺井・二十四の瞳>/当然学生们是不会没有反应的,因此也不服输地加快了脚步。||驚いちゃった,本当に。お父さんの足の早いって早いって,私は追いかけても追いかけても追いつけなくて,息は切れるし,死ぬかと思ったのよく有吉・恍惚の人>/真吓了我一跳。爹那两条腿走得可真叫快,我追呀追呀,怎么追也追不上,气都喘不过来,我以为得搭上命呢。②〔食物が〕くさりやすい/(食品)容易腐烂。||母は「牛乳は足が早いので,早く飲みなさい」と言った/妈妈说“牛奶爱坏,快点喝了吧。”||家庭で調理した食品は防腐剤を使っていないのでことに足が早い/家里烹制的食品因为没放防腐剂,所以特别爱坏。③〔商品の〕売れ行きがよい/(商品)畅销。||この手の新製品は思ったよりも足が早い/这种新产品比预想的销得快。

### あしは棒になる 足が棒になる

歩きつづけたり,立ち続けたりして,足が非常に疲れる/累得两腿发

直。||私たちは今日の遠足で山に登り,足が棒になった/我们今天去郊游爬了山,腿累得发直了。||仕事を捜して,一日中歩きまわり足が棒になってしまった/为了找工作跑了一天,腿都累直了。

### あしむ 足が向く

無意識のうちにその方へ行く/信歩而行。||ふたたび,二人は歩きだし,街の裏側の方へ自然に足が向いた<吉行・技巧的な生活>/两人又走起来,不由得向后街走去。||私は早朝から,何処をどう歩いているのかも知らずに,足のむくまま,自分の考えにすっかり身を任せ切ったようになって,森から森へとさ迷いつづけていたのだったが,…<堀・風立ちぬ>/我从大清早,就不知道走在什么地方,只是在自己的思想支配下,迷迷糊糊地从一个树林走向另一个树林,...

### あしは弱い 足が弱い

足が丈夫でない。しっかり歩けない/腿脚没劲。||わたしは足が弱いですから,どうぞ先に行ってください/我腿脚慢,请先走吧!

### あしたはあしたの風が吹く 明日は明日の風が吹く

今日どんなに嫌なことがあっても,明日は事情が変わっていいことがあるかもしれない意で,過ぎたことや先先のことでくよくよしても